

門医へ紹介することを推奨した。

C. 研究結果

84例（男性40例、女性44例、平均年齢 60.6 ± 19.1 歳）が回収された。横浜市肝炎検査が78例において施行され2例がHBV陽性であった。肝障害例において、抗核抗体が46例で測定され、14/46例（32～78歳）で陽性（x80～2560）、そのうち -GTP（22～186 IU/l）3/14例で基準値であった。ALP値は61～660 IU/lで、抗核抗体陽性で -GTPが基準値の3/14例では、2例（32、64歳）で391,502 IU/lであった。また、この14例では、IgG, IgA, IgMいずれも基準値であった。さらに5例で抗ミトコンドリア抗体が測定され、3例で陽性であった。いずれも肝生検がなされ、stage 1の早期発見であった。14例のうち5例が肝臓専門医に紹介された。

D. 考察

肝炎患者を拾い上げて治療に進めるには、まず、かかりつけ医の意識を高めることが重要である。さらに保険診療適応内で適切に対応することも必要である。今回、上記問題を解消すべく、できる限り簡便な肝疾患抽出シートを作成することで、HBV・薬剤性肝障害・早期の原発性胆汁性胆管炎を抽出できた。今後内科学医師のみならず、横浜市医師会各医会と連携し、肝疾患抽出シートを普及させ、適切に肝疾患抽出（掘りおこし）事業に協力できるとよう体制を確立させることが急務である。

E. 結論

ウイルス肝炎の治療の進歩により副作用の少ない経口抗ウイルス薬が使用可能となったが、治療に繋げるための患者掘り起こしには非専門医のクリニックの医師たちが簡便に肝炎患者を見つけ出すための肝疾患抽出シートが有用である可能性がある。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表(本研究に関わるもの)

1. 論文発表

Characteristics of non-obese NAFLD: Effect of genetic and environmental factors. Honda Y, Yoneda M, Kessoku T, Ogawa Y,

Tomeno W, Imajo K, Mawatari H, Fujita K, Hyogo H, Ueno T, Chayama K, Saito S, Nakajima A, Hotta K. *Hepato Res.* 2016 Sep;46(10):1011-8. doi: 10.1111/hepr.12648. Epub 2016 Apr 5.

2. 横浜内科学会肝疾患抽出事業：肝炎撲滅に向けた地域の取り組み．永井一毅、岡正直、齋藤聡：第41回日本肝臓学会東部会 2016年12月9日．東京都（京王プラザホテル）

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし